

しても今日の間違つた所謂公娼問題を吾人國民の生活領域の一部に考へなければならぬ。云ふのは我々目撃めたる所の日本人として堪へ切れないのであります。英國に於きましては今から約六十年程前、千八百六十五年に公娼制度が布かれ、其の公娼制度の施かれた時に、英國のお國者さんには是に反對した、けれども此問題は男の問題でなくして女の問題である。誰か女が起つて呉れる、女が起つて呉れし叫びました。其時に、パトリー夫人が起つた彼は議院會を開いても場内の椅子を投げられた。英國の政體は寧ろ公娼制度を布いた方が好い、従つて英國軍隊の爲に印度に公娼を御始しました所の、ヘンリー・ストークミズが提督を本國へ迎へて、さうしても公娼制度を御始したいと考へました。其時に此一婦人パトリーが一生懸命に叫んだ二十年開つた結果、遂つて見よ、其勝利が来た。千八百八十四年に此公娼制度は英國から撤廢されたのであります。是は婦人権風會等理想の高き婦人達に信賴する、日本の姉妹よ覺めよ、日本の女よ覺めよ。

我々同胞の中の五萬數千の肉と金との其墮落した……イヤ今日の資本主義の下に苦しめられ辱められつゝある所の其可憐なる白首の奴隷……此の線を解放する。云ふ事は實に日本の國の文化問題である。ナイチンゲルが痛める兵士を救つて呉れたとするならば、パトリー夫人は痛める娼妓を解放したのである。私は大阪のパトリーを信賴する。娼妓を松島遊廓より解放せよ、飛田遊廓を破壊せよ。兄よ大阪は斯く痛めなれた。兄よ東方の君子國は斯く痛まなつた。云ふ時が早く來ねばならぬ。諸君今はその時である。此娼妓制度の根本的破壊を叫ばなくてはありませぬか。(了)

之は一九二〇年春大阪中央公會堂に於ける婦人権風會の講演の速記であります。